

## 第1回 にこりこー帯にぎわい会議 会議録

開催日時 平成29年1月27日(金) 19:00-21:00

開催場所 箕輪町役場 2階 大会議室

参加者(敬称略)

委員 鮎沢進二、唐澤榮子、唐澤一美、唐澤良忠、栗原勇雄、黒木一郎、齋藤浩介、  
柴宮勇一、関幹子、田中健太、増沢弘久、和田篤士 以上13名

(欠席 大槻智也、木下深、柴みずほ)

事務局 白鳥町長、白鳥副町長、産業振興課長 唐澤紀朗、道の駅建設推進担当 土岐  
傍聴者 4名(報道除く)

### 1. 町長あいさつ

対象となるにこりこー帯は、町にとって重要な場所。役場でも一年ほど検討してきた。議会でも道の駅にしたいという事を発表してきたが、立ち止まって町民の皆さん、関係の皆さんと議論をし、そのうえで考えようということで、一年先送りにしている。

全国で地方創生に関わる取り組みが進み、人口減少、少子高齢化の中各市町村が競って事業に取り組んでいる。地方を活性化するという意味ではよいが、地域間で競争が起きているということでもある。箕輪町もその一つ。事業として、にこりこ、たべりこをどうするかというのは、大きな課題。

ながた自然公園を含めた町西部は大変重要な場所。この地域を施設を含めどう考えていくか、を立ち止まって考えていきたいと思ったことが、今回皆さんにお願いした理由。

その中で、一番キーになるのは「町民の皆さんに喜んでもらえる、使ってもらえる場所」でなければいけないということ。そうすることによって、町外、県外の皆さんからも親しまれる、楽しむことができる場所になる、という事を考えていきたい。

検討の上でキーになるのは2点。ものづくり主体の町ではあるものの、農業のことを考えないと地方創生できない。その意味でこの地域をどうするか。

もう一点は、若い皆さん、外の皆さんの意見がないといいものにならない、ということ。

この地域を考えることが、町の地方創生につながる、そんな意味合いでお願いしたい。

### 2. 会議の目的について 資料①P1-3 参照

### 3. 委員自己紹介

#### 鮎沢委員

にこりこ出荷農家、と紹介されているが実態はサラリーマンの兼業農家。イメージ的には家庭菜園を大きくしたくらいで、一つのものを作るのではなく、自分達が食べたいもの、自分の近所にあげるものを中心に作っている。そのうえで余ったものとか、こういう野菜を食べさせてあげたいな、という気持ちで趣味で作っている。山菜等も取っており、少し

でも地元の皆さんにいいものを差し上げたい、そして差し上げる中にたまたまお金がつかってくる、という気持ちでやっている。

にこりことの付き合いは、前身の愛来里から。箕輪町に引っ越して35年ほど、愛来里には15年度前から出荷し、そのままにこりこにも出荷している。

今日はにこりこの店長も参加しているが、その前の店長にも非常によくして頂き、小さい家庭菜園の延長でやっている。とにかく土いじりが好きで、できれば農家になりたいという思いもある。

ぜひ、にこりことその一帯が活気づいて、地元の皆さん、また県外からも魅力のある所だよ、というところを示し、箕輪町が発展していくよう、皆さんと一緒に力を注いでいきたいと思う。

#### **唐澤榮子委員**

先日、主人とたべりこにおそばを食べに行ってきた。やっぱり眺めは素晴らしく、こんなにいいところだから、どうかかしたいと、話をしていた。にこりこにも寄って買い物をし、お花も良かったが、時期的に生鮮野菜は少ない。

にぎわうようないい方法を作って協力し、活発に活動したい。

#### **唐澤一美委員**

にこりこの店長をしている。にぎわい会議ということで、店内にいるとわからないこと、外でないと見えないことが多々あると思う。それを皆さんのご意見を聞きながら、私も勉強させていただきたい。

最終的には農家の所得アップ、ひいては農家をやりたいという人が一人でも増えてくれることが私のこの会議の目標と思っている。

#### **唐澤良忠委員**

JAで果実を担当し、にこりこ周辺も8年ほど前から果樹団地構想として取り組んできた。大勢の皆さんの協力で農地を借りることができ、順調に軌道に乗ってきている。さくらんぼをはじめ、リンゴ、ブドウ、モモといくつもの果物が成園化してきており、28年にはぶどうオーナーを役場・農協の職員と試験的に開催し、非常に好評だった。29年にはさらに範囲を広げながら取り組んでいきたい。

選果場の直売所の所長である藤沢も、多くのお客さんの反応から、この地域の農作物は美味しい、十分ブランドになる、と自信を持って言っている。そのブランドをうまく生かしながらいい方向へすすめられたらと思っている。

#### **栗原委員**

商工会と町との距離を縮めるという観点でも、いい機会だと思って参加させてもらった。

民間感覚、もうかるかももうからないかの営利の部分の話や、地元の商業の観点から一緒に考えて参加し、話したことを商業部に持ち帰って皆で一緒に課題として考えたい。

仕事は明治の牛乳屋をしている。東京出身、大学卒業とともに移住して20年目。箕輪町に何も無い、という人もいるが、見ているといいものがある。ひとつのブランドづくりとしての、にこりこ、たべりこの改革案もあると思う。

#### 黒木委員

会社を辞めて12年、それ以来営農組合の仲間と荒廃農地などで耕作し、農に対する関心や知識を深めながら、町の色々な役も引き受けてきた。にこりこに出荷しており、小遣いはにこりこの売上によるが、いつも不完全燃焼な地域だと思っている。様々なトラブルを含めて、何をやっているのかと常に思っていた。せっかくメンバーに選んでいただいたので、そのあたりの私の思いを申し上げ、議論していきたい。

#### 齋藤委員

昨年から融資担当、微力だがそういった観点からも皆さんの力になれたらと思う。

#### 柴宮委員

大出区から参加。数年前まで農業委員をやっており、一帯の果樹団地の形成に最初にかかわった。その当時から早く道の駅のような形にして、飲食店をつくり、道を通る人や、そこを目的に行く人が増える施設になればいいと思っていた。

最近、南箕輪の大芝で非常に環境のいい、道の駅の建設計画が進んでいると聞き、大変厳しい状況になったと思っている。

周辺にあれだけの果樹地帯、野沢菜、アスパラなどの農産物があり、それを自分達で収穫するイベントなどを考えて、目的にあるにぎわう場所になるように、今ある施設を使って工夫して、一緒に検討できればと思っている。

#### 関委員

農家をしている。サクランボ、なし、ブドウ、プルーンを作っていて、今一番剪定が終わって忙しいところ。サクランボ、ブドウは集客力があり、すごくいいと思う。あそこはせっかく果樹が植わっているので、それを活かせばと思う。にこりこ果樹園は道路を挟んでいるので、道路をどう安全に渡すかを考えた方がいい。あそこは景観がいいので、地下道よりも陸橋があればいいかな、と思う。

とにかく、にこりこに人が集まらないとどうにもならない。人を集めるためには何かしなくてはいけない、という事だと思う。

子連れのお母さんだけでなく、年寄りも、みんなでお重を持って半日ぐらい遊べる場所が欲しい。椅子があって、みんなで遊んで、たまにはアイスクリームを食べて、という場

所が考えられないか。一番はあそこに温泉が引っ張ってこられたらいい。

#### 田中委員

山梨県の大月短期大学に通っており、研究室では主にまちづくりの勉強をしている。本年度のゼミの活動では4つの自治体で住民のワークショップやフィールドワーク、政策提言を行ってきたが、その中でこれまで関心のなかった箕輪町に興味がわき、HPなどを毎日チェックしている。

#### 増沢委員

月に一度、国道153号線を通って豊田市に行くが、だんだん寄る道の駅が決まってくる。何が行きたくさせるのかを考えると、まずはトイレの管理がしっかりしている、隣に温泉がある（平谷村）。隣の根羽村にも類似施設があるがそこは入りにくい。その先の稲武でどんぐりの里があるが、温泉もあり、行くとゆっくりできる。

にこりこり帯が、道の駅になるにあたって、何らかのほかの道の駅にない特色、選んでもらえる施設、一帯になればいいと思う。

#### 和田委員

昨年仕事を定年退職、5月に移住してきた。せっかく来たので、地域に貢献したいという気持ちで、町内障がい福祉施設「ティユール」に再就職した。勤める中で、ふれんどわーく、ほっとワークス、ティユール等で何かできないか、これからの世の中、高齢者、障がい者、子供を持った母親など、人と人の付き合いが大事になってくるのではないかと、エントリーした。にこりこり帯を人の集まる場所にしていきたい。

## 4 正副委員長選出

委員長 黒木一郎委員 副委員長 柴宮勇一委員

#### 黒木委員長あいさつ

非常に重い課題。言いつ放しではすまず、実際ににぎわってこなければならぬ。単なる夢を語ればいいものでもない。周辺に道の駅に近いものはたくさんあり、そこに勝たなくてはならない。勝つためにはどうするか、にぎわいを持つてくるにはどうするか、ということで、今後何か月か、皆さんと一緒に議論していく。そのためには、ぜひここに来るときにはテーマに沿った議論ができるよう、色々な情報を。

5、6年前から地方創生として、地域がにぎわうための何かを作り出せということだと思いが、そうすると補助金をくれる仕組みもある。そのためには、それに相当する内容がないといけないと思う。それぞれの立場で、アンテナを張って情報を集めていただきたい。

ここでの提案が、尊重されて実現していくことになる。そのための企画書を作るという

こと。そのためには、情報と裏付けが必要。裏付けとはデータのこと。データのない企画にはお金をかけるわけにいかない。なぜその道の駅に行くのか、という情報が必要。

また、町民に来ていただかないと成り立たない。

## 5. 協議事項

・会議・事業のスケジュール 資料①P4-5、資料②

・次回検討テーマ／会議の進め方

**事務局**：今回は、にこりこー帯を実際に見て現場を知っていただきたい。そののち、皆様の今現在のアイディアについて、ワークショップ的にお聞きしたい。

**委員**：見てから、具体的にどういうことを検討するのか。

**事務局**：現場を見て、共通認識を持ってもらいたいということが一つ。

そのうえで、現場に即したご意見、今現在皆さんがそれぞれの立場でお持ちのご意見、そこににぎわいをつくるにはどうしたらいいか、にぎわいのために何が必要かについて、ワークショップ的に自由に意見を出し合っていただく場にしたい。

**委員長**：意見を出すといっても幅広い。陸橋を作る、という意見も出ていたが、そういうことでもいいのか。

**事務局**：良いと思う。

**委員長**：大きくとらえると、アイディアということになる。例えば温泉がいいとか、施設がどうとか。そういうレベルでいいのか。

**事務局**：最初にコンセプトを決め、次に具体的な事業を決めるという流れだが、具体的な事業からスタートする人、コンセプトからスタートする人、両方いる。どちらが後先でもどちらでも行きつくと思うが、分けて考えるのが難しいと思っている。

**委員長**：テーマに対してそのものずばりの事業を考えている人もいると思うが、これは共通認識だから、コンセプトからではないか。共通認識から外れる提案になっても困る。

**委員**：現場を見て、目的のにぎわいをつくるにはどうしたらいいか考える、ということですよ。何を作ったらいいな、と考えて、それをもとにして現場を見て、どうしたらいいかを考えるということですね。

**委員**：会議の種類は何なのか。制限なく色々な意見を集めるということか、決める会議なのか、話しやすくするための会議なのか、その辺りをはっきりするといい。

**委員長**：にぎわうために、これは外せないという部分をはっきり出した方がいい気がする。例えば、おばちゃんたちが楽しめるエリア。これからの社会は福祉を除いては考えられない。国の予算は福祉、高齢者、子供。そこからお金が出てくれば。その意味では福祉は外せない。福祉に携わる人があの場所に来ていただく、楽しんでいただく場所であってほしい。順序とすればある程度そういう部分から、コンセプトとして、検討したら。

**委員**：テーマがはっきりすると話しやすいが、決めてしまうと引きずられてしまうか。

**委員長**：展望台を作るだけでは単なる思い付き、という気がする。

**委員**：にぎわいを確保するには、いくつか理想がある。それに対して現状をみて、現在の施設の状況を確認して、周辺の状況も確認して、今の施設の状況、例えば駐車場が狭いかもかもしれない、足湯があればいいかも、子供たちを連れてお母さんがおにぎりを持って休憩できる場所がいい、まずは人を集めよう、それにはどんなことが必要か、気づいたことを出し合うというのはどうか。理想に対する現状、打ち手という事だと思う。

**委員**：長年あそこに通い、季節には毎日朝晩通っている。にぎわう、にぎわわないは店長が一番把握していると思う。

私のイメージでは、朝だけで午後は客がいない。夕方は一台も車がない。

朝 8 時から 5 時に閉めるまで、まんべんなく人がいるのか、平日もいるのか、土日はどうなのか。どういうお客様が来ているのか。季節では、お盆だと県外からお客さんが来る。山菜やきのこの時期には、地元だけでなく外からお客さんもくるし、そういう人が高いものを買っていく、地元の人が高いものは買わない。どの時間帯が客がいないのか、何曜日がないのか。先ほど長く滞在という話もあったが、それがわかると何をしなくてはいけな  
いか、というものが見えてくる。

また、どんなものを売っているのか、事細かく皆さんは知っているか。これを作ろう、という話は後ででてくることで、まずは経常分を把握しないと。

何でもかんでもコンセプトを変えるのではなく、今あるものも考えて、これは残そう、これはだめだから新しく作ろう、力を入れようということだと思う。

店長さんが参加しているので、そういったことを説明してもらいながら、これに困っていると、そういうことを聞かないと、何していいか分からないと思う。

**委員長**：現状の問題点を出してみるということですね。

**委員**：そうです。

**委員長**：現状の分析はある程度はできているようだが、それに対応する策が出てくれば、それがアイデアになる。なんでも出してみて、その後をどうするかは、そこで考える。皆さんの想いがあるということなので、それを言ってもらえばいいのではないか。

**委員**：今後の進め方として、月一回の会議、今回も 7 時から 8 時半。限られた時間で話をするには、時間がなさすぎる。今回、エントリーシートは当日回収だったが、事前に回収して、当日にはまとめた状態で共有する方が、内容が濃くなると思う。

**委員**：なるべく早い機会に、愛来里や農産物生産組合の当時の想い、女性の加工施設利用（のっばらの会）に関わった人たちの考え方を聞く機会を持ってみたいらどうか。

**委員長**：一帯の履歴を知ることだが、ここでの検討はそこで止まっている話ではなく、これから先のことを考える話。その辺りは、関わった委員が想いを聞いてはどうか。全員で時間を取って過去を共有するより、そこから先の方策を出していくということかと。

**委員**：加工所の最初の目的は所得の向上で、あったほうが良いということで始まったが、結局挫折したのはお客が来ない、売れないから。結局にぎわうための方策を考えないと、

発展はないと思う。今後のことを考えた方がいい。

**委員長**：お客が来ないという事は、やり方がまずいということ。お客さんのせいにしても仕方ない。それに携わる人が足りなかったということ。

**委員長**：次回は、現状分析もいいし、解決策もいいし、何でも話し合っ、そこから見えてくることを話そう、ということでもいいか。

**委員**：初めの段階では、突飛な意見でも何でも出してもらって、その中から方向性が見えてくればいい。最初からコンセプトでなくてもいいと思う。

**委員**：にこりこ・たべりこの資料を作っていたが、見えてこない。もう少し問題点をざっくばらんに知りたい。過去の経過など、全く知らずに進めて、今までやってきた人の同意が得られず進まない、では困る。現状を詳しく知る資料が欲しい。どの時間帯に人がいないのかなど、にぎわわない原因があると思うので。要はマーケティング。

**委員**：私のイメージは近年、現店長と前店長が試行錯誤しているから売れているだけ。それがなければ前の状態、愛来里の最後の状態に戻ってしまうと思う。

店長の方だけによらず、どうにかしなくてはいけないということが、今回の会議だと思う。個人の努力で何とかなる範囲も限界が来ているように見えるし、ここでみんなで考えて、道の駅でもなんでも知恵を出していかなければいけない。

場所が問題なのか、トイレがないからいけないのか。それぞれの立場で、店の立場からも、話して考えないと、見た目の数字だけでは分からない。店長がいるので、現地を見て質問していくなかで、できること、町にお願いしていくことなどが見えてくるのではないかな。そうしないと、どこから入っていいか分からない。

**委員**：施設運営している人の想いがあるかもしれないし、その問題点も加味してアイデアを出していくのがいいかもしれない。

**委員長**：売り上げから外販を除いて日割りにすれば、ある程度わかるのではないかな。

**委員**：その数字を出す事より、もっと売上を上げたり、にぎわったりしたいということ、元に戻って考えては。委員の皆さんがイメージで書いた、エントリーシートの提案事項をまとめ、それに対してどうするかを考えては。

**委員長**：例えば前の畑をつぶして駐車場にする、というのも一つの方策。それが別の問題を生むかもしれないが、あまり限定して考えるとなかなか答えが出にくい。

**委員**：いろんな意見を出すにしても、現状を知らなくてはならない。にこりこだけでなく、加工所ではだれが何を作って、作ったものがどうなっているのか、どこで売れているのか。地元で売れないのかなど、一つ一つの現状が分かれば、提案できる。たべりこも。そういう材料があって、福祉とか、居場所とか、そういう話が出てくる。

**委員長**：色々なデータを出すということだと思う。ひとまずそれがないと、先に進めない。

**委員**：どんなデータが必要か、事前に言ってもらえれば出せるものは出したい。

**事務局**：一つには、現状をもっと知りたい、過去のことも大事だという声もありました。それから皆さんの問題意識、それはエントリーシートにも書いていただいているし、発言

もしていただきました。

まず、それをまとめさせていただきます。その上で、さらに皆さんが何を聞きたい、何が分からないか、何を思っているかをまとめます。

具体的には、次回までに皆さんからの質問事項を集め、いったん事務局でまとめ、会議前にお返しします。同時に、質問事項や用意してほしいデータなどは、事前ににこりに連絡します。当日はそれをもとに話し合いをします。

**委員長**：そういう方向でいかがか。

**委員**：いいと思う。

## その他

・住民の皆さんの声について 資料③

・公開の原則について

委員個人の名前までは特定しないものの、会議及び会議録は公開します

・今後の開催日程

エントリーシートをもとに、事務局で次回までに提案します。

## 【次回開催日時】

日時 平成 29 年 2 月 22 日（水） 15：30～ 場所 たべりこ